



中野区における祭り

この季節は各地で神輿をかつぐ威勢の良い掛け声が聞こえてきたり、色とりどりの露店が並んだり、夏祭りのシーズンである。中野区では、歴史ある『中野氷川神社例大祭』や、最近では震災の復興を願う『東北復興大祭典なかの』など数多くの祭りが開催されている。

鷺宮八幡神社の『例大祭』では近年まで、鷺宮福蔵院の『節分会』では現在も、『鷺宮囃子』という祭り囃子が奉納されていた。この囃子は、昭和57(1982)年に中野区の無形民俗文化財に登録された伝統芸能である。鷺宮囃子保存会の方により若い世代に継承され、現在も文化を守っている。



▲八幡神社例大祭で山車の上から演奏される鷺宮囃子 (提供：鷺宮囃子保存会)

八幡神社例大祭

例大祭は、昔から地域の氏神である神社に五穀豊穡を感謝し、村の繁栄を祈るための大切な行事であった。古くは秋に開催されていたが、子ども達にも参加してもらいたいという想いから、夏休み期間中である現在の8月の日程になった。祭りは2日間行われ、両日ともに八幡神社境内では町内の方々による空手演舞や日本舞踊などの様々な催し物が開かれている。

例大祭での鷺宮囃子は、八幡神社境内で奉納演奏されていた他に、お神輿が町内を練り歩くときに一緒に付き添われ、山車の上から演奏を行うこともあった。



▲例大祭で行われる神主による御祈禱 (提供：鷺宮八幡神社)

福蔵院節分会

福蔵院では毎年節分の時期になると節分会が催されている。戦後まもなく、敗戦により暗い雰囲気になる中、どうにか人々が元気になるような祭りを始めようという趣旨で、先代の住職が開催を提唱したとされている。

冒頭で述べた鷺宮囃子保存会は福蔵院内に設置されており、住職が会長を務めている。

当日は豆まきの前に、お囃子が演奏される他に、獅子舞や大黒様による大黒天の舞なども披露され、祭りの楽しさに拍車がかかる。まかれる豆には子どもの好きなお菓子も含まれており、老若男女笑顔が溢れる。



▲節分会で披露される大黒様による豆まき (提供：鷺宮囃子保存会)

※五穀豊穡の神として信仰されている



▲左 福蔵院節分会でのお囃子の演奏風景。年齢は関係がなく、練習次第では写真のような子どもも舞台にあがる (提供：鷺宮囃子保存会)
右上 保存会の方々による稽古風景。大太鼓・締太鼓×2・篠笛、本番にはこれらの他に鉦が入る (2016年6月25日撮影)
右下 鷺宮囃子の譜面。口頭伝承のため元々譜面はなかったのだが、入門者にも解りやすく伝えるために保存会の方が自作した

鷺宮囃子保存会

今回、保存会の方々によって毎週行われているという稽古にお邪魔した。最初は基本囃子という10分程の演奏が行われた。太鼓にバチを打つ際には、「ドッコイ！ヨッ！」など互いに掛け声を出し、リズムを計っている。間近で体感すると太鼓の音の響き、笛の美しい音色、そして何よりもその大きさ、迫力に驚いた。稽古場である福蔵院の講堂に目一杯に広がる楽器の音には

圧倒される。

基本囃子が一通り終わると、先生からのアドバイスや演者同士の意見が交わされ、改善点などを洗い出す。

続いて、応用編の本囃子という15〜20分程ある長尺の演奏が始まった。基本囃子よりも複雑なリズムであることが素人目にもわかる。その中でも笛は他の

楽器よりも難易度が高く、習得するのも大変とのことだ。笛を担当されていた村山さんは次のように語る。

「稽古するのも本番で演奏するのも、お囃子は私のライフワークになっています。また、郷土の伝統芸能なので、これから先も地元の人たちで残していかななくてはならない、という使命感を感じますね。」



参考文献

- 『鷺宮八幡神社御祭禮』シエンアート／編 2014 所蔵：全館 (中央のみ禁帯)
- 『まつりと講』中野文化センター郷土資料室／編 1979 所蔵：全館
- 『中野区の神社をたずねて 北部編』中野区立中央図書館／著 2010 所蔵：全館
- 『地域教材情報』中野区立歴史民俗資料館／編 1994 所蔵：中央(禁)、野方、南台、鷺宮、東中野、江古田、上高田
- 『中野区の文化と歴史』中野区立歴史民俗資料館／監修 媒体：DVD 所蔵：中央

参考サイト

- 『みんなで作る都市観光サイト まるっと中野 2014/8/23』
<http://www.visit.city-tokyo-nakano.jp/category/playing/event/18793>